



TOHOKU
UNIVERSITY

充実した大学生活を過ごす。

東北大学 2016年 全学教育ガイド

全学教育は、全学の教員が全学部の学部学生に対して行う科目の教育です。
また、専門教育や大学院教育への展開のために不可欠な、
学部専門教育ではできない基盤的な教育となっており、広い意味での教養教育です。





理事(教育・学生支援・
教育国際交流担当)

花輪 公雄

(学務審議会委員長、
高度教養教育・学生支援機構長)

最先端の専門的知識とそれらを活用する力を得るために

東北大学への入学、おめでとう。皆さんはまず、川内北キャンパスで‘全学教育’を受けることになります。全学教育とは、すべての学部の人を対象とした基盤的な共通教育のことです。

全学教育でコアとなるのは、教養教育(リベラルアーツ教育)です。自分のことや他者のことを知る人文科学、社会のことを知る社会科学、そして自然のことを知る自然科学、これらの分野の基礎知識を身につけ、真理の探求の仕方を学ぶための授業科目群を準備しています。皆さんは、最先端の専門的知識とそれらを活用する力を得るために大学に入学されたと思います。この目的を達成するための重要な基盤を創るのが全学教育の役割です。本学は、皆さんが全学教育を楽しみかつ積極的に取り組めるよう、様々な工夫や仕組みを導入しています。皆さん、主体的に全学教育に取り組み、そして楽しんでください。

本学教養教育院(4ページ参照)と学務審議会が主催する第6回東北大学教養教育特別セミナーを2016年4月11日(月)の午後に、川内萩ホールで開催します。今回の共通テーマは「異文化理解と教養—留学によって身につく力—」です。皆さん一人ひとりが、全学教育で何を指すべきかを考える良い機会ですので、奮って参加してください。

東北大学の基盤教育としての全学教育

「基幹科目」、「展開科目」、「共通科目」の3科目類からなる教育課程を設定し、科目群毎に構成された授業を実施して、以下の目標を達成します。

基幹科目類

専門分野の如何を問わず、倫理、芸術、言語表現、ジェンダー、経済、社会、政治、歴史、生命、環境などの分野における現代的テーマに関する基本的な知識と技能を学び、人間・社会・自然の諸事象に関する幅広い知見と柔軟で多角的な視野を身につけ、豊かな教養と人間性に裏付けられた知的な探求を行う基盤となる知識と技能を養うことを目標としています。

展開科目類

基幹科目において習得した基盤となる知識と技能をもとに、人文科学・社会科学・自然科学等の諸科学に関する基礎的知見、学際的な解決を要する現代的諸課題に対応するための視点と知識を身につけるとともに、授業を通して研究者の学問的営為を知り、学問への意欲を高め、専門教育・大学院教育へと展開する学問的・人間的基盤を養うことを目標としています。

共通科目類

社会的倫理性に基づく主体的判断力・行動力とコミュニケーション能力、国際人としてのコミュニケーション能力と他文化理解力、情報に関わる基本的知識と技能、心身の健康維持・増進のための知識と技能など、現代人として生きるために必要不可欠な能力及び基本的素養と技能を養い、能力や技能の自己開発のための起点を形成することを目標としています。

教育改革を加速させる取組「科目ナンバリング、GPA制度」

今年度から科目ナンバリング、GPA制度を導入し、より豊かな学修成果を生み出す素地を整えます。

科目ナンバリングとは、教育課程の体系が容易に理解できるように、科目間の連携や科目内容の難易度を表す番号をつけ、教育課程の構造を分かりやすく明示する仕組みです。授業科目に記号と番号を振り、授業の難易度・性格、位置づけ、履修順を明確にすることによって、どの科目から履修していけばよいかを理解し、学士課程・大学院課程全体の中でその授業がいかなる位置にあり、どのような目的で履修するのかを把握することができます。

GPA(Grade Point Average)制度とは、履修科目の成績の平均を数値により表すものです。学習意欲を高め、適切な修学指導に資するとともに、厳格な成績評価を推進し、学びの質を向上させることを目的としています。

主体性を育む基礎ゼミ・展開ゼミ

「基礎ゼミ」は、転換・少人数科目として1年次前期に開講しています。これまでの受動的な学習から、自立的な学習という「学びの転換」を目的とした20人以下の少人数クラスの授業です。教員からの知識の伝達という一方通行の授業ではなく、実験、実習、フィールドワークなどの様々な授業形態があり、受講生は、教員やいろいろな学部の学生と真剣に学び、楽しくコミュニケーションを図りながら、主体性をもって参加しています。毎年約150以上の授業テーマが提供され、入学した学部にかかわらず、好きなテーマを選んで受講することができます。全ての授業終了後には、「基礎ゼミ」で学んだ成果を発表する「基礎ゼミ成果発表会」が公開発表会として開催され、優秀な発表には投票により賞が授与されます。

さらに、「基礎ゼミ」に続く展開的、学問的なゼミを受講したいという多くの学生の要望に応え、平成25年度後期から、さらに発展的なアクティブ・ラーニングを中心とした「展開ゼミ」を開講し、現在の開講科目数は60科目以上にまで広がっています。



融合型理科実験「自然科学総合実験」

この実験の背景にある考え方は、「複雑な現象を論理的に考え、本質を見抜く力はどうやって養われるのか?」という問いかけと「新しいテーマに積極的に取り組む姿勢を育む」ことにあります。そのため、従来の物理学実験・化学実験・生物実験・地学実験の枠は取り払い、さまざまな視点から多角的に捉えることを特徴としています。

大学を卒業して取り組む課題は、総合的なものが多く、従来の縦割りの学問分野の知識だけではなく、多角的な知識を総合して解決が計られる場合が多くあります。また、課題に取り組む過程においては、問題解決のためには確かな専門知識を身につける必要があることも自ら認識することになります。

このようにして企画された融合型理科実験「自然科学総合実験」は、理系学生のほぼ全員に必修となっているだけでなく、「文科系のための自然科学総合実験」として、文系の学生にも開放されています。



充実した外国語教育

全学教育科目の英語教育の一環として、1年次と2年次に全学部学生を対象に大学を会場としてTOEFL ITP® テストを実施しています(受験料は大学が全額負担)。

TOEFL (Test of English as a Foreign Language)とは米国のNPO法人であるEducational Testing Service(ETS)が主催している英語のテストです。このテストはグローバルスタンダードの英語テストとして世界各国の教育機関等で入学希望者の英語力判定などに利用されています。そのため、自分の英語の実力を客観的に判断できるだけでなく、世界に通用する英語力の向上に役立てることができます。さらに、少人数クラスの実践的な英語授業「Practical English Skills」を2年次対象に開講しています。

英語の他にも「初修外国語」、いわゆる第2外国語を学ぶ必要があります。初修外国語には独・仏・露・西・中国・朝鮮語の6つがあり、いずれかを選択し1年生で基礎、2年生で応用を学ぶことができます。

また、実際の授業では黒板に先生が板書するばかりでなく、外国の小説や新聞・マンガをテーマに議論したり、グループで劇の発表をしたりするなど、多くはまず学生に興味をもってもらえることを重視しています。もし分からないことがあれば、授業によってはネイティブの上級学生がティーチング・アシスタントとして参加しており、年齢も近いので気軽に質問してください。

言語活動を通じてその言語をもつ文化圏の興味・理解を深める



プラクティカル・イングリッシュコース

プラクティカル・イングリッシュコースは、「実践的英語能力をさらに高める」ことを目的として土日に開講される課外授業です。グローバルに活躍できる人材を目指すためには、授業において英語で発表を行い質疑応答に対応できる、英語でレポートや論文を書き、自分の意見を言える等、実践的に英語を活用していくチカラが求められます。このコースでは、経験豊富なネイティブスピーカーを講師として、ディスカッションやプレゼンテーションなどの「アウトプット中心の授業」を行うことで、実践の場で必要とされる英語スキルの効率的な取得を目指します。



東北大学グローバルリーダー育成プログラム(TGLプログラム)

将来グローバルな活躍をするために必要な能力を身につけることを目的に、「語学・コミュニケーション力」、「国際教養力」、「行動力」、そして「海外研鑽」をテーマとした4つのサブプログラムにより構成される「東北大学グローバルリーダー育成プログラム(TGLプログラム)」を実施しています。

それぞれの能力を身につけることのできる、全学教育科目、各学部の科目や課外活動などのアクティビティをTGLプログラム対象として指定。それぞれの能力をバランスよく高めていくよう、授業を履修したり、様々なプログラムや課外活動に積極的に参加することで「TGLポイント」を獲得していくことができます。一定の要件を満たした学生には「TGLプログラム修了証」又は「グローバルリーダー認定証」を授与し、大学として、グローバル人材としての基礎力がある学生として表彰しています。

全学教育科目では例年150科目以上が指定科目となっており、例として、外国人留学生と共に取り組む「国際共修ゼミ」、英語でのプレゼンテーション力を伸ばす「Practical English Skills」、外国及び日本の文化や歴史を学ぶ科目等があります。このほか、夏休みや春休み期間中に1ヶ月間海外の大学等で研修し、単位を取得できる、人気の海外研修(スタディアブロードプログラム/SAP)も海外研鑽サブプログラムのポイント対象で、TGLに登録している学生はこのプログラムへの参加者選考時に有利になることがあります。

TGLプログラムは全10学部の学部生を対象とした登録制で、全学部生の約20%にあたる約2,100名(2015年11月現在)が登録しています。登録は4・5月及び10月に受け付けており、4月及び10月には説明会を開催しています。皆さんの積極的な参加を期待します。



<http://www.insc.tohoku.ac.jp/japanese/global/>



教養教育院

教養教育院は、教養教育の充実に向けた施策の一つとして設置されました。教養教育の実施及び支援を行い、創造力豊かで高い問題解決能力を有する人材の養成に資することを目的としています。

在職中に教育・研究において優れた業績を上げ、教育に対して強い情熱を持った本学名誉教授の中から選ばれた総長特命教授を中心に、本学に学ぶ学生が世界で活躍できる力を持てるよう、合同講義の開催をはじめ教養教育の諸課題に挑戦しています。

毎年4月には学務審議会との共催で、新入生向けに教養教育特別セミナーを開催しています。大学生活を本格的に始める前に、教養教育について考えてみる良い機会となるでしょう。



<http://www.las.tohoku.ac.jp>

学習支援センター(SLAサポート)

Student Learning Adviser (SLA: エスエルエー)とは、東北大学における学生による学生のための学習支援スタッフのことです。主に学部3年生～大学院生の学生がSLAとして、全学教育を受ける学部1・2年生の学習サポートを行っています。具体的には、《物理・数学・化学等の理系科目》の質問・相談対応、《英会話支援》、《レポート(ライティング)支援》、《自主ゼミ支援》、その他各種学習イベントや授業とリンクした活動等を行っています。SLAのコンセプトは、学生同士の“学び合い”。“ともと学ぼう、ともに育とう、『ともぞだち』を合言葉に、マルチメディア教育研究棟1階フロアのSLAラウンジにて日々活動中です。ラウンジ自体は、飲食可能なフリースペースなので、気軽に利用してみてください。



<http://sla.cls.ihe.tohoku.ac.jp/>

全学教育における情報教育



マルチメディア教育研究棟には情報教育用のICL演習室(1階)と語学教育用のCALL教室(2階と3階)があります。そこにはインターネットに接続された800台以上のPCが配置され、授業で占有されていないときは自習用に開放されます。特に1階の演習室は、授業期間中の平日は20:45まで利用できます。

全学教育科目「情報基礎」は、文系・理系などの区分ではなく学部横断的に標準化された教育内容で実施されています。具体的には、情報技術を活用した知的生産と、コンピューショナル・シンキングによる問題解決の各技能の基礎を涵養する「アカデミック・スキル」と、情報社会の一員としての責任を自覚するための「ソーシャル・スキル」を2本の柱としています。

海外研修(スタディアブロードプログラム/SAP)



海外研修(スタディアブロードプログラム/SAP)は、長期休業(春・夏)を利用して、語学力を磨き、アカデミックスキルを高めることを目的とした2-5週間のプログラムです。参加学生は、協定校などで実施されるテーマに沿った体験学習や、特色ある英語講座に参加し、さまざまな学習の機会を得ることができます。さらに現地学生やコミュニティメンバーとの交流、ホームステイなど、日本では得られない貴重な体験を通じて、語学の運用能力を高めるだけでなく、国際的な視野を育むことが期待できます。

全学教育科目(カレントトピックス科目)「海外研修」として実施されますので、所定の成績を収めた学生には、2単位が付与されます。

東北大学 教育・学生支援部 教務課

東北大学全学教育 <http://www2.he.tohoku.ac.jp/zengaku/zengaku.html>

〒980-8576 宮城県仙台市青葉区川内41

TEL.022-795-7578(全学教育企画係) TEL.022-795-7558(全学教育実施係)

平成28年4月発行



このフレックは「水なし印刷」により印刷されています。



環境にやさしい植物油インキ「VEGETABLE OIL INK」で印刷されています。